



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月8日

上場会社名 美津濃株式会社
 コード番号 8022 URL <http://www.mizuno.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水野 明人
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理財務担当 (氏名) 福本 大介
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東大

TEL 06-6614-8465

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	42,611	2.6	2,703	△15.5	2,270	△24.8	1,272	△34.5
24年3月期第1四半期	41,541	0.9	3,198	6.2	3,020	14.5	1,941	56.5

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 1,540百万円 (△28.3%) 24年3月期第1四半期 2,148百万円 (272.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	10.22	—
24年3月期第1四半期	15.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	139,346	78,435	56.1
24年3月期	130,452	77,498	59.3

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 78,235百万円 24年3月期 77,336百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	83,000	6.3	4,700	7.8	4,200	7.7	2,500	12.1	20.07
通期	167,000	7.8	6,600	20.0	6,400	13.1	3,800	20.9	30.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成24年8月8日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	132,891,217 株	24年3月期	132,891,217 株
25年3月期1Q	8,311,508 株	24年3月期	8,327,294 株
25年3月期1Q	124,567,171 株	24年3月期1Q	124,578,017 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

※ なお、第1四半期決算の補足説明資料を当社ホームページに掲載する予定です。

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年6月30日）における当社グループの経営成績は次のとおりです。売上高はランニングシューズの売上増や日米でのゴルフ品販売の回復などにより10億6千9百万円増収（2.6%増）の426億1千1百万円となりました。一方で、仕入コスト増の影響により売上総利益率が低下したことや五輪関連で経費増となったため、営業利益は4億9千4百万円減益（15.5%減）の27億3百万円となりました。経常利益は営業減益及び営業外損益の悪化により7億5千万円減益（24.8%減）の22億7千万円となり、四半期純利益は主に経常減益によって6億6千9百万円減益（34.5%減）の12億7千2百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

① 日本

日本経済は、震災からの復興需要などを背景に生産や設備投資、住宅着工に持ち直しの動きが見られ、個人消費も緩やかながら回復傾向をたどりました。しかしながら一方で、海外景気の減速や円高の長期化、電力供給問題などにより先行きの不透明感も増しました。

個人のスポーツやヘルスケアへの関心は一層高まり、グラスルーツレベルでの競技会は多様化し参加人口が増加する傾向が続きました。このような情勢のもと、当社においては、市場の成長が顕著なランニング市場に対して、レース用に加えトレーニング目的のシューズや汎用性の高いスポーツアパレルなど新商品の投入を積極的に進め需要に対応しました。この結果、売上高は9億5千2百万円増収（3.2%増）の308億2千8百万円となりました。他方では、生産拠点を有するアジア各国の労働賃金や原材料価格など仕入コストの上昇が利益を押し下げる要因となり、営業利益は1億3百万円減益（4.7%減）の20億8千2百万円となりました。主な商品別の状況は以下のとおりです。

ランニングシューズは、中上級レベルのランナーをターゲットにした<ウエーブ スペーサーAR>や<ウエーブ マーキュリー>がユーザーの買い換え需要をとらえ好調な売れ行きとなりました。ウォーキングシューズ<ミズノ フリーウォーク i o>シリーズは、からだに無理のない健康歩行への関心の高まりを背景に、通販チャンネルで好評となり販売額が伸長しました。また、サッカーシューズは<エストレラNEO>や<イグニタス>シリーズを中心に順調に売上を伸ばしました。

スポーツウエアでは、多様なスポーツシーンに対応するマルチトレーニングアパレル<ミズノ クロスティック>が一般アスリートからジュニア層まで多くのユーザーニーズをつかみ、堅調に推移しました。

ゴルフ品は、“YORO JAPAN”のプロモーション活動の浸透が進み、<ミズノ MP-59>をはじめとする<ミズノ MP>シリーズアイアンのカスタムフィッティングでの受注が好調でした。

ベースボール品は、パーソナルユースのベースボールシャツは堅調な動きを示したものの、少年野球人口の減少や軟式野球人口の縮小など向かい風の環境のもと、少年・軟式用のグラブやバットは厳しい状況となりました。

② 欧州

ギリシャの債務危機に端を発した欧州危機はスペインへと波及し、さらなる大規模な経済支援によりEU主要各国の財政状態は一層深刻な状態となりました。

企業は在庫調整や仕入抑制を強化し、EU域内の経済活動の停滞をまねくこととなりました。また、個人消費は次第に萎縮し、欧州を襲った天候の不順がこれに追い討ちをかけました。

スポーツ品市場ではロンドン五輪開催への期待と盛り上がり徐徐に大きくなってきたものの、個々のユーザーは足元では商品を買ひ控える傾向を強めました。

このような情勢のなか、当社の欧州販売事業は、＜ウエーブ ライダー 15＞などランニングシューズやスポーツアパレルの拡販を推進したことに加え、ゴルフクラブでは＜ミズノ MP-59＞アイアンを中心にカスタムフィッティングの受注で健闘しました。この結果、売上高は健全成長を果たしたものの円高による目減りにより1百万円増収（0.1%増）にとどまり23億9千5百万円となりました。また、欧州通貨安は仕入コスト増に拍車をかけ、苦戦が続くゴルフ品全般の不振をカバーすることはできず、7千2百万円損失額が増加し1億1千9百万円の営業損失となりました。

③ 米州

米景気は足踏み感が強まり、長引く雇用低迷で個人消費が息切れしつつある厳しい状態が続きました。この傾向は個人のスポーツ品購買意欲の減退にもつながり、店頭での値下げ販売の促進など流通段階での在庫調整が加速しました。

このような情勢のもと、当社グループの米州販売事業は、シェアアップを図るランニングシューズを筆頭に、ゴルフクラブのカスタムフィッティングによる拡販を推し進めました。ランニングシューズでは、＜ウエーブ クリエーション＞や＜ウエーブ ライダー 15＞などの高機能商品が、専門店チャネルに加え大型量販店チャネルでも売上を伸ばし事業を牽引しました。ゴルフクラブでは＜ミズノ MP-59＞アイアンがミズノブランドへの根強い信頼感を武器に、新モデルの＜ミズノ MP-650＞シリーズのウッドが技術力の高さでそれぞれ売上を伸ばしました。この結果、現地通貨ベースでの堅調な成長のもと円高による目減りがあったものの、売上高は1億4千2百万円増収（2.1%増）の67億9千9百万円となりました。しかしながら、主力商品の仕入コストの増加が利益を圧迫したため、営業利益は1億3千8百万円減益（17.6%減）の6億4千6百万円となりました。

④ アジア・オセアニア

持続的な成長を示していたアジア・オセアニアの景気は、減速が鮮明となり世界経済浮揚のアンカーとしての役割に翳りが出始めました。

このような傾向にもかかわらず、これまで安定した成長を示していた台湾の販売事業は、ランニングシューズを中心に拡販を進め成果がありましたが、仕入コスト増が利益を押し下げる要因となりました。中国国内販売では、店舗展開やプロモーションなど各種営業施策を実行し、売上は微減となりましたが、損益は改善しました。豪州においては、ゴルフ品及びランニングシューズをはじめとする一般スポーツ品の販売は概ね堅調に推移したものの、仕入コスト増に加え広告宣伝費などのマーケティング経費を先行して支出したため、それらを十分にカバー・吸収するには至りませんでした。

この結果、アジア・オセアニア全体の売上高は2千7百万円減収（1.0%減）の25億8千8百万円となり、営業利益は1億7千5百万円減益（69.1%減）の7千8百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ88億9千3百万円増加し1,393億4千6百万円となりました。主な要因は、セノー株式会社の株式を取得したことなどによる投資有価証券の増加75億7百万円です。

負債は、前連結会計年度末に比べ79億5千6百万円増加し609億1千1百万円となりました。支払手形及び買掛金は季節要因により15億8千6百万円減少しましたが、一方でセノー株式会社の株式取得目的の調達資金を含めて短期借入金が増加しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ9億3千6百万円増加し784億3千5百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加6億4千9百万円、及び為替換算調整勘定（借方残高）の減少7億4千1百万円です。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の59.3%から56.1%へと3.2ポイント低下しました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向及びセノー株式会社の買収を踏まえ、平成24年5月17日公表の連結業績予想数値を修正しております。

なお、当該予想数値の修正に関する事項は、本日（平成24年8月8日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照願います。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

減価償却方法の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響額は軽微です。

(4) 追加情報

子会社の取得

当第1四半期連結会計期間において、セノー株式会社の株式を取得し子会社化しました。当第1四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に与える影響が軽微であるため、連結の範囲に含めておりません。なお、取得した株式は、「投資有価証券」に含めて表示しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,987	13,349
受取手形及び売掛金	35,605	34,706
有価証券	756	756
商品及び製品	24,773	23,738
仕掛品	893	827
原材料及び貯蔵品	1,357	1,295
繰延税金資産	2,156	2,315
その他	4,244	5,760
貸倒引当金	△928	△960
流動資産合計	80,845	81,790
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,493	18,630
土地	15,171	15,175
その他（純額）	2,307	2,390
有形固定資産合計	35,972	36,197
無形固定資産	1,705	1,827
投資その他の資産		
投資有価証券	7,421	14,928
繰延税金資産	1,796	1,978
その他	5,759	5,676
貸倒引当金	△3,047	△3,052
投資その他の資産合計	11,929	19,531
固定資産合計	49,606	57,556
資産合計	130,452	139,346

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,079	16,493
短期借入金	5,103	13,931
1年内返済予定の長期借入金	1,800	1,800
未払法人税等	721	690
返品調整引当金	229	229
その他	9,795	10,171
流動負債合計	35,729	43,316
固定負債		
長期借入金	9,630	9,630
繰延税金負債	94	95
再評価に係る繰延税金負債	2,830	2,830
退職給付引当金	1,321	1,398
資産除去債務	234	247
その他	3,113	3,392
固定負債合計	17,224	17,594
負債合計	52,954	60,911
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,137	26,137
資本剰余金	31,197	31,200
利益剰余金	27,712	28,362
自己株式	△3,027	△3,011
株主資本合計	82,020	82,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	864	665
繰延ヘッジ損益	△142	△456
土地再評価差額金	△1,145	△1,145
為替換算調整勘定	△4,259	△3,517
その他の包括利益累計額合計	△4,683	△4,453
少数株主持分	161	200
純資産合計	77,498	78,435
負債純資産合計	130,452	139,346

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	41,541	42,611
売上原価	23,740	24,922
売上総利益	17,800	17,688
販売費及び一般管理費	14,602	14,985
営業利益	3,198	2,703
営業外収益		
受取利息	62	47
受取配当金	104	94
その他	107	71
営業外収益合計	274	213
営業外費用		
支払利息	94	73
売上割引	145	117
為替差損	166	419
その他	45	35
営業外費用合計	451	646
経常利益	3,020	2,270
特別利益		
固定資産売却益	1	1
退職給付制度改定益	56	—
関係会社清算益	17	—
特別利益合計	74	1
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	—	107
災害による損失	10	—
特別損失合計	10	108
税金等調整前四半期純利益	3,084	2,163
法人税等	1,114	866
少数株主損益調整前四半期純利益	1,969	1,296
少数株主利益	27	23
四半期純利益	1,941	1,272

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,969	1,296
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	△198
繰延ヘッジ損益	△142	△313
為替換算調整勘定	295	755
その他の包括利益合計	179	243
四半期包括利益	2,148	1,540
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,119	1,502
少数株主に係る四半期包括利益	29	38

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。